

「種山ヶ原は今㉕」

賢治五行詩に思う

「高原」 宮沢賢治作 1922

海だべがど おら おもたれば
やっぱり光る 山だったぢやい
ホウ
髪毛 風吹けば
鹿踊りだぢやい



昔の写真です。今は牛に。

4行詩か、5行詩か素人の私はまず迷う。宮沢賢治の叫びは有名だから、「ほう」は大切にしよう。

大正11年賢治が一人で種山ヶ原に来た時に書いた詩だと教え子の手記の中で知った

明治生まれの年寄りたちがよく言ってた。「物見山に登れば遠くに海が見えたもんだ。野芝だから裸足で歩けだんだ。馬っこはレンゲツツジは食わねがら、牧場一体にあった。春になればきれい咲いだった。」と。

確かに大正11年頃、種山周辺は牧草でおおわれ、周辺の山々は栗木鉱山の製錬の炭のために木は切られ裸山になり、一帯の山には木はなかったという。山並みがなだらかに幾重にも広がる北上山地だったようだ。

小学生の頃牧草オーチャードが広がる種山で馬にのせていただいたことがある。馬の背がとても高く感じた。ちょっと怖かったけど、朝の牧草の中を馬で走るのはとても気持ち良かったことを覚えている。

賢治も、オーチャードの牧野にいたのだろう。背の高い牧草だけに、座ると、穂先が顔にまつわる。風が吹くと草の香りが鼻腔をくすぐり、風が波のように牧場を走る。

子ども鹿踊りをこの高原で踊らせて見たかったのだろう。

また、ある人曰く、「北上山地は隆起でつくられた高原で、今はもう準平原。かつては海の底だったのだ。地質学者でもある賢治は、そのことも頭の中にはあったのではないか」と。

山開きには毎年鹿踊りや剣舞が祭りを盛り上げてくれる。

あと1ヶ月で山開きだ。

「星座の森」 4月28日オープン

ここ2年、キャンパーが多く、施設の人達は水不足で苦慮していたが、ごく最近解決し、めでたく開園しました。





桜満開です



早朝の岩手山



早池峰山



最近黄砂できれいに見えませんが…